

## ● 新規購入図書紹介

図 書 名	著 者 / 編 集 者	出 版
<b>教育課程・学校図書</b>		
学力テストのイノベーションとダイバーシティ —全国の学力向上政策の実証的研究—	北野秋男	風間書房
学校の「読書バリアフリー」はじめての一步 学校図書館10の事例	野口武悟	学事出版
<b>農業経済・造園</b>		
限界集落の経営学 活性化でも撤退でもない第三の道、粗放農業と地域ビジネス	斉藤俊幸	学芸出版社
ジオパークからはじめる地域づくり・人づくり	佐藤真久、辻修次、 山本隆太、遠藤大介他	静岡新聞社
<b>地方自治</b>		
コミュニティデザインの現代史 まちづくりの仕事を巡る往復書簡	饗庭伸、山崎亮	学芸出版社
<b>その他</b>		
これからのAI、正しい付き合い方と使い方 「共同知能」と共生するためのヒント	イーサン・モリック、 久保田敦子	KADOKAWA
団塊ジュニアの医療と介護 超高齢化社会における社会保障制度	橘木俊詔、森剛志	東京大学出版会
文化としての保護司制度 立ち直りに寄り添う「利他」のこころ	今福章二	ミネルヴァ書房



## 春 心をととのえる



近所に住む友人が断捨離をしています。さて私は？自分の部屋を眺めると、なんと多くのものに囲まれた生活をしていることか。ものには思い出が凝縮されており、生活に必要なものも、なかなか手放せずにきました。

「断捨離」という言葉は、今から15年前に流行して以来、日常でも「断捨離しないとねー」などと会話の中でも聞くようになりました。

書店に行くと「断捨離」をテーマにした本をよく目にします。例えば、『1日5分からの断捨離～モノが減ると、時間が増える』や『不思議なくらい心がスーッと断捨離』など興味深いタイトルが並んでいます。

「断捨離」を広辞苑で調べると「手放していくこと」と書かれていました。

ものが必要な方のもとに旅に出ると思えば、自分のもとから離れるのもよいと思えるかもしれません。

今春、娘が高校を卒業しました。制服を手放すことが出来ずにいたので、友達に相談したところ、制服のリユースをしているNPOなどがあることを聞きました。リユースをすることにより、欲しい人に使ってもらえます。ものを通して人と人とがつながり、ものにも新しい物語が始まります。

今、和歌山市では年間を通し、各地でフリーマーケットが開催されています。和歌山城の砂の丸広場でも開催されています。出店はできなくても、近所の人や友人に声をかけ必要な方に使っていただくのもよいと思います。

身の回りのものが自分にとって本当に必要なものなのか、何かを購入する際は代用できるものを持ってはいないか、環境に配慮されているか、自身に問いかけることから始めませんか。ものが溢れ、ものに振り回される暮らしから、一つのことを大切に作る暮らしへ変えると、心も整っていく気がします。

